

1. 全死因による死亡の状況

(1) 全国の死亡の状況の年次推移

全国の粗死亡率(人口10万対、以下同じ。)をみると、男女とも昭和30年代(1955)から昭和50年代(1975)までは、ほぼ横ばいあるいは若干の低下となっていたが、昭和60年代(1985)に入ってから上昇傾向が続いている(図1)。

また、令和4年(2022)の全国の年齢調整死亡率(人口10万対、以下同じ。)は、男1437.4、女785.8であり、男女とも昭和25年(1950)以降低下傾向が続いていたが、令和3、4年(2021、2022)は上昇している(図2)。

昭和60年代から令和2年にかけて年齢調整死亡率が低下しているのに対して、粗死亡率が上昇しているのは高齢化の影響による。

図1 粗死亡率の年次推移

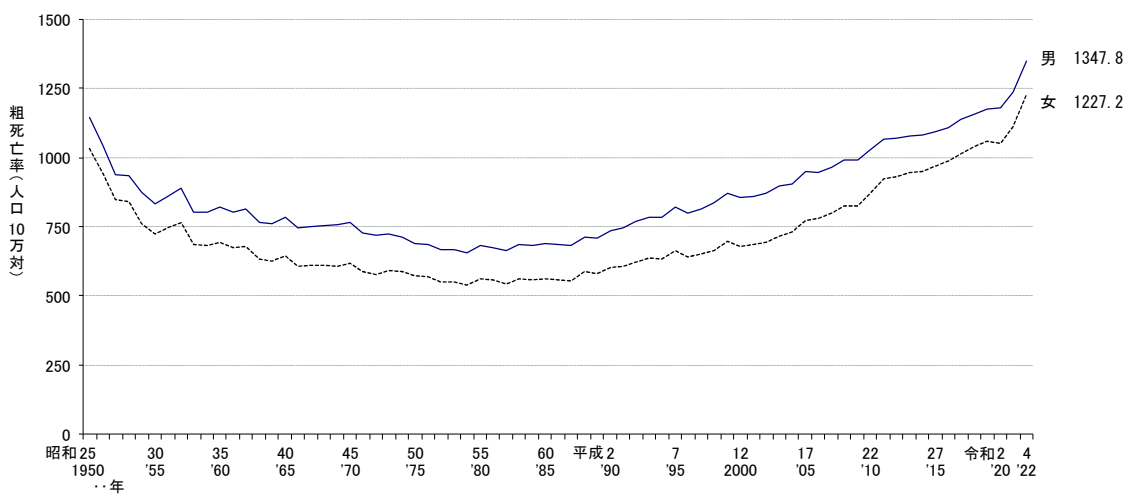
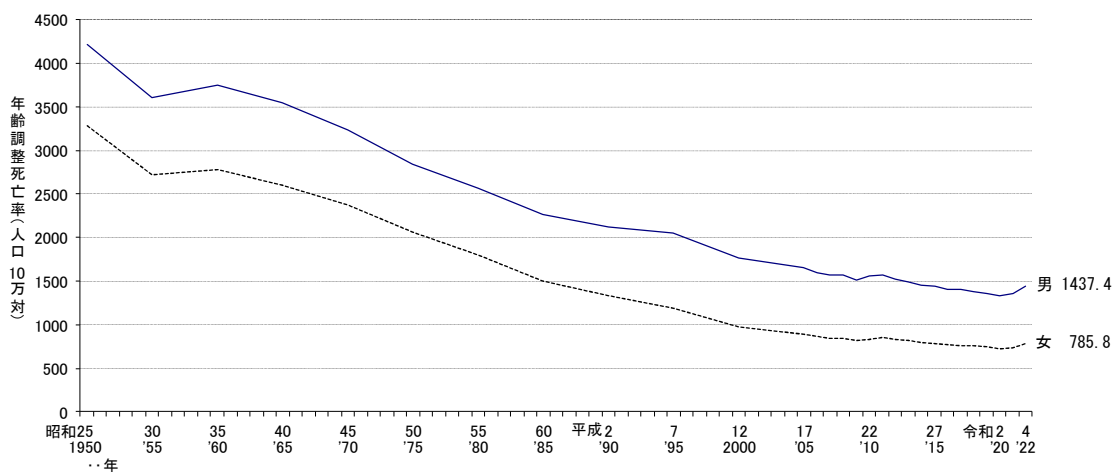


図2 年齢調整死亡率の年次推移

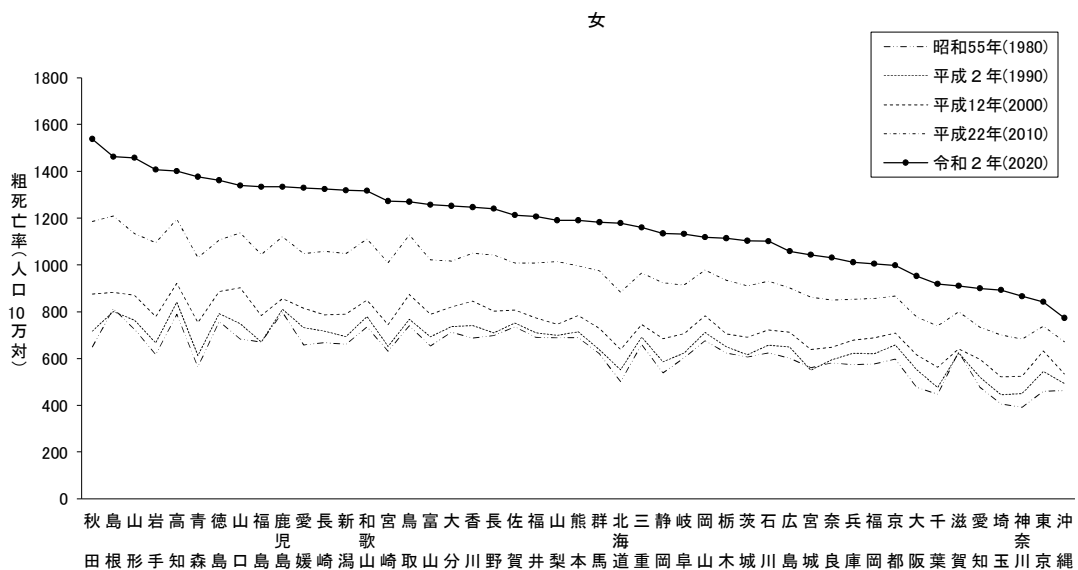
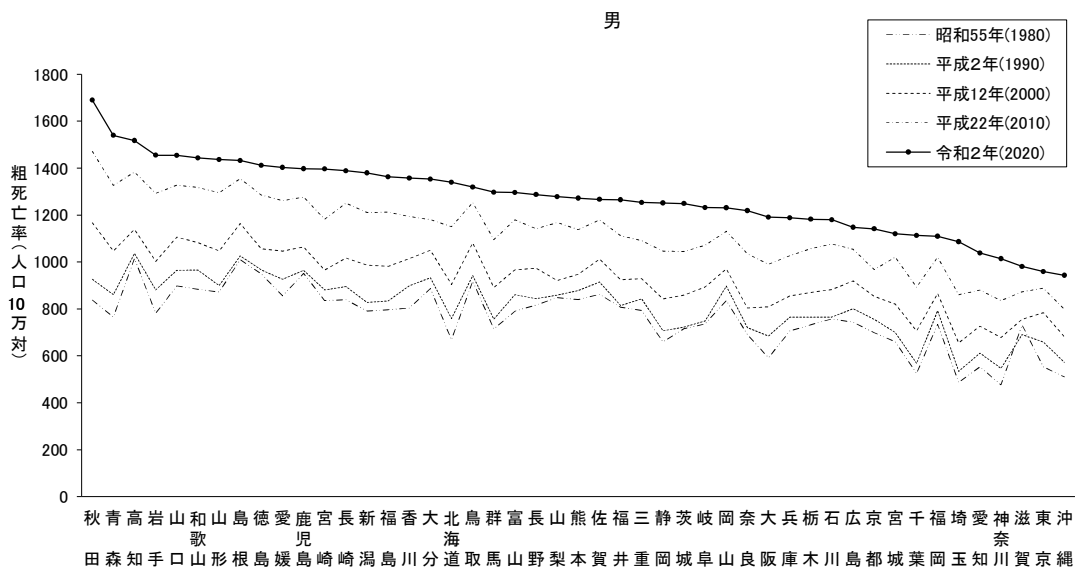


(2) 都道府県別にみた死亡の状況

令和2年(2020)の粗死亡率を都道府県別にみると、男は沖縄、東京、滋賀、神奈川、愛知等で低く、秋田、青森、高知、岩手、山口等で高くなっており、女は沖縄、東京、神奈川、埼玉、愛知等で低く、秋田、島根、山形、岩手、高知等で高くなっている。

都道府県別粗死亡率を時系列でみると、男は昭和55年(1980)が神奈川、平成2、12年(1990、2000)が埼玉、平成22(2010)、令和2年(2020)が沖縄で最も低く、昭和55、平成2年(1980、1990)が高知、平成12、22、令和2年(2000、2010、2020)が秋田で最も高くなっている。女は昭和55年(1980)が神奈川、平成2、12年(1990、2000)が埼玉、平成22、令和2年(2010、2020)が沖縄で最も低く、昭和55、平成22年(1980、2010)が島根、平成2、12年(1990、2000)が高知、令和2年(2020)が秋田で最も高くなっている。(図3-1)

図3-1 都道府県別粗死亡率の推移
—昭和55・平成2・12・22・令和2年(1980・1990・2000・2010・2020)—



(注) 都道府県は令和2年(2020)の高率順に並べている(以下同様)。

令和2年(2020)の年齢調整死亡率を都道府県別にみると、男は長野、滋賀、奈良、京都、神奈川等で低く、青森、秋田、福島、岩手、大阪等で高くなっており、女は鳥取、沖縄、熊本、長野、岡山等で低く、青森、福島、栃木、岩手、茨城等で高くなっている。

都道府県別年齢調整死亡率を時系列でみると、男は昭和55、平成2、12年(1980、1990、2000)が沖縄、平成22、令和2年(2010、2020)が長野で最も低く、昭和55、平成2、12、22、令和2年(1980、1990、2000、2010、2020)のいずれも青森で最も高くなっている。女は昭和55、平成2、12、22年(1980、1990、2000、2010)が沖縄、令和2年(2020)が鳥取で最も低く、昭和55年(1980)が山形、平成2年(1990)が大阪、平成12、22、令和2年(2000、2010、2020)が青森で最も高くなっている。(図3-2)

図3-2 都道府県別年齢調整死亡率の推移
—昭和55・平成2・12・22・令和2年(1980・1990・2000・2010・2020)—

